

ロボコン2010全国大会 ベスト8入り!

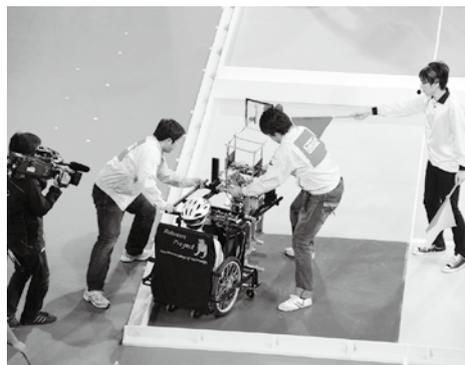
電子制御工学科5年
高橋智也／大畑直樹／川節拓実

私たちの5年間のロボコンを語る上で欠かすことができない人がいます。それはロボコンプロジェクト発足当時からずっと面倒を見てくださっている勢田勝郭先生のことです。

ロボコンでは夜遅くまで作業することもあります。先生はいやな顔ひとつせず付き合ってくれました。ロボットの調子が悪く、失敗が続いているときには「焦るなよ。大丈夫だ」と何度も声をかけていただきました。そんな先生もたった1度だけ弱音を吐かれたことがあります。

それは2009年度ロボコン近畿地区大会でのことです。私たちのロボットは、十分戦えるだけのスペックを有していましたが、当日のトラブルにより地区大会敗退という結果に終わってしまいました。その日の最後の全体ミーティングで勢田先生は「俺はもう1度全国大会へ行きたかった」と初めて普段私たちには見せない熱い想いを口にされました。それを聞いた私たちは、なんでこの先生を全国へ連れて行けなかったのだろうと地区敗退を悔やんだものです。

私自身は受験勉強のため、本当は他の同級生と同様に4年生の時点でロボコンは引退するつもりでした。しかし、勢田先生をどうしても自分の手で全国に連れていきたいという気持ちも強く、さらに、お前がやるなら俺もやると言ってくれた同級生の言葉にも後押しされて5年生でのロボコンへの参加を決意しました。勢田先生を国技館へ連れていだけなんてケチなことを言わずに、どうせなら優勝旗も持たせてあげようと同級生とはよく語り合ったものです。こうして私たちの最後のロボコンは始まりました。



私たちの率いるロボコンAチーム総勢22名、全員が本気でロボコンに取り組みました。活動場所のよく見える位置に大きく『全国優勝』という目標を張り出し、全員であーだこーだ言いながらロボットを作り上げていきました。その結果、私たちは地区大会を突破し、全国大会でもベスト8、アイデア賞という素晴らしい結果を残せたのだと思います。

しかし、やはり全国優勝を本気で狙っていたので、負けてしまったときは悔しさのあまりチーム全員で泣きました。それでもチーム全員が悔し涙を流せるような想いのこもったチームを作ることができたことを私は誇りに思いますし、このチームメンバーで最後にロボコンに参加できてよかったと感じることができました。

最後に、私たちを1年間サポートしていただいた教員や技術職員の方に感謝を、そして、来年こそは悲願の全国大会優勝を! 頑張れ! 奈良高専!

近畿地区大会優勝! 全国大会準優勝!!

マネージャー 辻 郁奈／野村佑加

1月4日から第41回全国高等専門学校ラグビー大会が、今年も神戸のユニバー競技場で開催されました。奈良高専は5年連続10回目の出場であり、全国大会10回出場の表彰がありました。今年の近畿大会では『第一シードの意地』を見せ、神戸高専を倒し、優勝することができました。『全国大会二連覇』の気持ちを胸に、去年に引き続き『1.5倍』を意識し、全国大会へ向けて練習を重ねていきました。

今年も奈良高専はシード校であったため二回戦から始まりました。初戦の相手は初出場の熊本高専であり、モールで先制点を獲得したものの、熊本にラインアウトからの展開でのトライで逆転されてしまい、前半は5-7で終了しました。後半では開始8分で奈良が逆転しましたが後半26分に再び熊本に逆転されてしまいました。しかし、ロスタイム2分で奈良がモールからボールを展開しトライを奪い、15-12と逆転勝利を勝ち取ることができました。

今年の準決勝の相手は函館高専でした。前半は奈良高専のペースで非常に良い流れで終えました。しかし、試合終了間際には続けてトライを取られるという危ない面もありましたが、32-20で勝利し、今年も決勝へ進むことができました。



そして、決勝戦は仙台高専と全国制覇をかけた戦いでした。全国大会までの1年間は、仙台高専をイメージし、体格で負けている分、キックからの展開でゲームを支配すること、『1.5倍』をチームキーワードに練習をしてきました。仙台高専の強さは、昨年、一昨年と対戦して十分理解していましたが、それでも勝っている部分があると確信していました。決勝戦の舞台は昨年同様、ホームスタジアム神戸でした。試合開始のホイッスルが鳴り、大舞台での緊張を感じさせない、積極的なプレーで流れをつかむことができました。前半開始すぐに先制トライで5-0となり、とても良い雰囲気でした。その後、仙台高専のトライで5-7となりましたが、奈良高専らしい攻撃を繰り返し、みんなが「勝てる」と思いながら前半が終了しました。後半からはペナルティが目立ってきて、思うようにプレーができず、流れが変わってしまいました。試合終了まで流れを引き戻すことができず、仙台高専に攻められ、5-24で決勝戦は敗退しました。ノーサイドのホイッスルが鳴るまで、逆転を信じていたため、「負けた」という実感が湧きませんでした。

連覇を達成することはできませんでしたが、『チーム松井』は本当に素晴らしいチームであったと強く思いました。マネージャーとして『チーム松井』に関われたことをとても誇らしく思います。最後までチームを引っ張ってくれた5年生の皆さん、本当におつかれさまでした。5年生が7人も抜けることに不安も感じますが、来季も全国大会での悔しさや感動を忘れず、『チャレンジャー』として選手と一緒に再び全国制覇を目指したいと思います。

現地まで応援に来てくれたご家族の方々、奈良高専OBの方々、先生方、また多くの関係者の方々のご理解、ご支援があり、1年間練習をしてこられました。本当にありがとうございました。